

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為（判断）とは異なる行為（判断）を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合事象が対象になります。

平成18年9月6日に不適合管理委員会で審査された不適合事象は、下記のとおりです。

区分Ⅰ：該当なし

区分Ⅱ：該当なし

区分Ⅲ：該当なし

その他：11件

No.	号機等	不適合件名	グレード	備考
1	2号機	取水設備バー回転式スクリーン（F・G）において、「過トルク」警報の発生が認められたため、当該スクリーンを点検・調整	D	
2	2号機	タービン駆動原子炉給水ポンプ（A）再循環弁開操作時、作動用電磁弁の動作不良が認められたため、当該弁を点検・修理	D	
3	3号機	原子炉建屋換気空調系冷却装置（ACH3-1）圧縮機（B）吐出圧力指示計の点検時、指示不良（指針固着）が認められたため、当該計器を修理	D	
4	3号機	計器設定に関する確認において、原子炉水位変換器の単体校正記録とループ点検記録の入力範囲に相違が認められたため、対応検討	D	
5	5号機	配管点検の放射線透過検査において、高圧注水系の配管ソケット継手部に配管差込代の不足が認められたため、対応検討	C	
6	5号機	排ガス真空ポンプ（B）の電動機点検時、カップリング内径とシャフト外径嵌合部の隙間値に管理値外れが認められたため、当該部を修理	D	
7	5号機	配管点検の放射線透過検査において、気体廃棄物処理系のT管ソケット差込部（上流側）に傷が認められたため、対応検討	D	
8	5号機	重油タンク出口ストレーナ入口圧力計において、付け根袋ナット部に油のにじみが認められたため、当該部を点検・修理	D	
9	5号機	ほう酸水注入系統水張り後、逃がし弁のレバーシャフト付け根部のプラグガスケットより水のリークが認められたため、当該ガスケットを修理及び対応検討	D	
10	その他	低レベル放射性廃棄物検査装置の始業点検において、放射能測定装置（NO. 1）のガンマ線波高分析器に基準値外れが認められたため、当該装置を修理	D	
11	その他	水処理設備排水用中間ポンプ（B）において、シール水ドレン配管に詰まりが認められたため、当該配管を点検・清掃	D	

【凡例】

公表区分	事象の概要	主な具体例
区分Ⅰ	法律に基づく報告事象等の重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画外の原子炉停止</li> <li>・発電所外への放射性物質の漏えい</li> <li>・非常用炉心冷却系の作動</li> <li>・火災の発生 など</li> </ul>
区分Ⅱ	運転保守管理上、重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全上重要な機器等の軽度な故障（技術基準に適合する場合）</li> <li>・管理区域内の放射性物質の軽度な漏えい</li> <li>・原子炉等への異物の混入 など</li> </ul>
区分Ⅲ	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画外の原子炉または発電機出力の軽度な変化</li> <li>・原子炉の安全、運転に影響しない機器の故障</li> <li>・主要パラメータの緩やかな変化</li> <li>・人の負傷または病気の発生 など</li> </ul>
その他	上記以外の不適合事象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常小修理 など</li> </ul>

<原子力発電所における不適合事象の是正管理>

原子力発電所では、設備の健全性を維持し、安全運転を継続するため、発電所設備の定期検査や運転中の巡視点検、定例試験、点検・修理等を行っております。その中で、「不適合」が発見された場合には、「不適合管理マニュアル」に基づき、必要な是正措置を講じることとしております。

\* 「不適合の定義」（JEAG4101-2000より）

本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為（判断）とは異なる行為（判断）

不適合管理グレード分け（不適合管理委員会にて決定）

- As : 法令、安全協定に基づく報告事象  
プラントの性能、安全性に重大な影響を与える事象
- A : 保安規定に関わる不適合事象  
定期検査工程へ大きな影響を与える事象
- B : 国の検査等で指摘を受けた不適合事象  
運転監視の強化が必要な事象
- C : 品質保証の要求事項に対する軽微な不適合事象
- D : 通常のメンテナンス範囲内の事象
- 対象外 : 消耗品の交換等の事象

<注 意>

掲載内容に関するお問い合わせにつきましては、下記のお電話までお願いいたします。

電 話：0240-32-3432 福島第一原子力発電所・広報部・情報発信グループまで